



# 総合質管理(TQM)部ニュース

2024年8月号(第13号)



今月は、緩和ケア課とがん化学療法課の紹介です

## 緩和ケア課

緩和ケア認定看護師 新川 恵美

緩和ケアは、疾患を抱える患者さんとその家族に対して、全人的苦痛のアセスメントを行い、その方にとって何が最善か、多職種で考え、その人らしく過ごせることを大切にしています。

## 今回は『心不全の ACP』について考えてみましょう。

### 【心不全の特徴】

心不全は、急性増悪・改善を繰り返し病像は徐々に進行していきます。最期は比較的急速で、どの急性増悪が本当の終末期であるのか判断することがとても困難です。

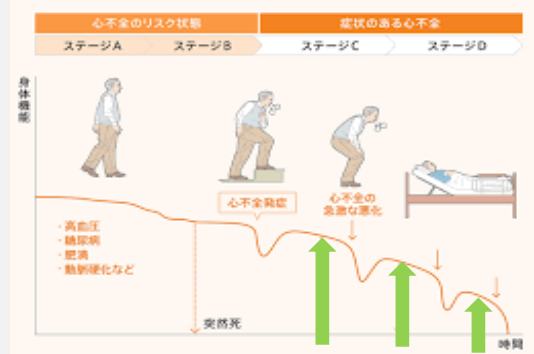
そのため、患者への病状の説明が遅れたり、自律した意思決定支援がなされないまま終末期を迎えてしまうことがあります。

患者や家族も病期が進行しているという実感がなく、やがて訪れる死がイメージできずに、将来について現実的に考えられないことがあります。

### 【ACPのポイント】

- ①心不全が改善と増悪を繰り返さず進行性の病気であることを理解してもらう
- ②意思決定能力が低下する前から継続的に繰り返し意思決定支援を行う
- ③患者自身がどのように病状を理解し受け止めているか尋ねる
- ④心身の状況が低下しているタイミングはコミュニケーションを控える
- ⑤希望を保証しながらも最悪の事態(もしもの時)に備えて対応するという観点で進める

### 【心不全の病期分類】



### 心不全の ACP のタイミングはココ



## がん化学療法課

(文責) がん化学療法看護認定看護師 佐藤 絵美

がん薬物療法に用いられる薬剤は、治療を受ける患者さんだけでなく医療者にも危険が及ぼすことが多く、**Hazardous Drugs(HD)**と言われ、その特徴については10号(2024年4月)で掲載しました。今回は、投与後の曝露対策期間についてです。

抗がん剤投与後の患者さまは、ある一定期間抗がん剤が体内に残り尿や便、汗などから排泄されます。



トイレの便座、床、ドアノブ、洗面所の蛇口、



抗がん剤を取り扱う医療従事者や治療を受けていない家族の尿から抗がん剤が検出したとの報告あり。

### 患者本人はもちろん、それを手伝う家族、医療従事者の曝露対策が必要です

#### <対策をとる期間>

- ・原則として投与後 **48時間必要**!! (一部薬剤は7日間、フルオロウラシル、インドキサン等)
- ・内服抗がん剤を連日服用されている場合は最終服用日から2日間

排泄物を取り扱う際は適切な防護具(手袋、エプロン、マスク等)を使用し、曝露予防をしましょう

\* 直接便や尿に触れてもすぐに健康被害が起こるわけではありませんが、職業曝露に対し過小評価せず、過剰に恐れず、正しい知識を持って接することが必要と考えます。

何か不明な点、気になることがあればお気軽にお声かけください。

